

令和元年度 第4回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日時	令和元年12月19日（木）13時30分～15時00分
場所	東郷町役場3階 政策審議会議室
出席者	委員 ※敬称略、順不同 松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会） 岡松猛 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部） 佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会） 福島美佐子 訪問看護師（虹色訪問看護ステーション） 近藤秀己 東郷町社会福祉協議会 土井肇 東郷町北部地域包括支援センター 山内恵介 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑 制野司 有識者（社会福祉法人 昭徳会） 村井良則 有識者（東名古屋医師会在宅医療介護総合研究センターやまびこ） 池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし） 小島通範 東郷町民生委員児童委員連絡協議会 野々山清子 東郷町民生委員児童委員連絡協議会 柴田典義 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑） 松山陽二 居宅介護支援事業所（もみの木） 神脇和美 住民代表（第1号被保険者） 海老原由美 住民代表（第2号被保険者） 森本美香 こども健康部 健康推進課
欠席者	木村誠子 瀬戸保健所 健康支援課 近藤修司 居宅サービス関係（エイジトピア諸輪）
傍聴者	2名
事務局	福祉部長 高齢者支援課長（進行） 高齢者支援課職員 4名
議題	1 報告事項 第3回在宅医療・介護連携推進部会について 2 議題 (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について (2) 在宅介護実態調査について (3) ケアマネジャーアンケート調査について (4) 事業者アンケート調査について 3 その他 第8期高齢者福祉計画策定に向けた今後のスケジュールについて
配布資料	次第 資料1 令和元年度第3回在宅医療・介護連携推進部会 報告書

	資料 2	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（第 8 期）調査票
	資料 3	在宅介護実態調査（第 8 期）調査票
	資料 4	ケアマネジャーアンケート調査票
	資料 5	事業者アンケート調査票
	資料 6	第 8 期東郷町高齢者福祉計画 策定スケジュール

1 委嘱状交付

2 あいさつ（委員長）

3 報告事項

第3回在宅医療・介護連携推進部会について

事務局	資料説明。資料1
委員長	事務局から説明を頂いた。委員から補足説明はあるか。
委員	2月2日の医療介護フェアの動員をぜひお願いする。
委員長	動員の協力をお願いする。ご意見・ご質問がないようなので、次に移る。

4 議題

（1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

事務局	資料説明。資料2
委員長	事務局から説明を頂いた。意見を伺いたい。
委員	自分がアンケートを回答するという前提で質問する。7 ページに、質問の趣旨が分からないところがある。問 18 は、体重の減少だけ聞くのは意味があるか、増えたのは聞かなくて良いのか疑問。問 23 は、家族を含むのかどうか。問 29 は、今はほとんど口座引き落としなので請求書自体をなかなか見ることはないが、口座引き落としをしていればそれで良いのかどうか。問 34 は、選択肢 1 に「自分や家族ができるかぎり努力した方がよいと思う」とあるが、これは地域のことなのか。家族のことであればこの選択肢で良いと思うが、地域の問題の選択肢の中で自分の家族ができる限り努力した方がよいと言うのは、どのような趣旨なのか分からなかった。
事務局	問 18 は、食事の摂取にどのような変化があったかということを踏まえた項目。栄養が足りているかという趣旨であり、低栄養かどうかを把握するために体重が減ってきたかどうかを項目として入れている。問 23 は、一人で食事をしているかそれ以外か。家族を含めた誰かと食事をする機会があるかどうかを確認するもので、国の設問になっている。質問のところに家族も含めてと入れると分かりやすいと思うので、追加することを検討する。問 29 は、何らかの手続きを自分で出来ているかということを見ている国の設問。解釈としては、口座振替の手続きなどを含めて自分で行っているのであれば、そういうものも含めていただければよいと考えている。問 34 は、地域において問題や課題があった時に、家族だけで解決をしようとする思いがあるのかということを知っている。できる限り家族で解決していく必要があるのではないかということで選択肢に入れている。
委員	表現が分かりにくい。地域に対して個人が解決するかどうかであれば、「個人（自分や家族）」という表現の方が分かりやすいと思う。
委員	「個人」という単語が入れば分かりやすいと思う。現在のままだと、家庭内の問題を聞いているような感じがする。

委員長	地域が先に来て、最後の選択肢 4、5 に個人がくると趣旨が分かりやすくなるのではないかな。
事務局	選択肢の順番については検討する。
委員長	内容については理解できる。国の設問を変更するのは難しいのか。
事務局	より分かりやすい言い回しに変えることはできると思うが、趣旨が変わってしまうものは難しい。
委員長	8 ページの選択肢のほとんどが、「できるし、している」となっている。設問が「外出することはできますか」なら「できるし、している」で良いと思うが、「外出していますか」という設問に対してなら「している」が良いのではないかな。ただし、選択肢 2 の「できるけどしていない」を入れたいばかりに、選択肢 1 に「できるし」という言葉を入れていると感じた。そうするのであれば、設問を「することができますか」とした方が妥当かと思った。
事務局	国からは、選択肢を含めて設問の提示があった。私たちも、聞き方が気になる部分はある。
委員長	「できるけどしていない」というところを拾わないといけないので、ここにチェックする人のためには、選択肢 1 はこのようにしないといけないのかもしれない。「できるし」の後には「、」がついているが、「できるけどしていない」にはついていない。文章としては合っているのか。
委員	「している」の程度の問題だと思う。本人はやっているつもりだが、周りから見るとできていないと捉えられることも多い。請求書の支払いなどは特にそうだ。そのため、国の意図としてはあえて「できるし、している」を入れたのではないかな。まわりの人が記入するのであれば「できるけどしていない」は「できていない」になると思うが、自分で回答する前提。
委員長	これで体裁としては整っているということですね。
委員	問 37 と問 40 の違いがはっきり分からない。
事務局	問 37 は国の設問であり、問 40 ではこれを更に深く聞きたいという趣旨がある。中心的な存在として参加がしたいのか、周りの補佐役として参加がしたいのかということを知っている。
委員長	問 37 は参加がしたいかどうかで、問 40 でどのような立場で参加したいかを確認するということか。
事務局	企画運営として参加する上で、中心的な立場なのか補佐役なのかを聞く。
委員長	飛んでしまうと同じような内容になっていると見えるので、問 37 の下に問 40 の設問があると良い。設問の順番を変えることは可能か。
事務局	可能。聞き方も変える。
委員	問 56 で介護保険料の使われ方を聞いているが、例えば福祉用具の購入など、問 58 の選択肢には入っていないものがある。問 56 の方が、幅が狭いと思う。
事務局	問 58 では生活支援に関するサービスについて、使いたいものや使っているものを聞いているので、問 56 に入っていない選択肢はある。アンケート自体が、認定を持っていない一般高齢者の視点を入れているので、生活の困りごとを多く聞

	いている。
委員長	問 56 はあくまで知っているかを確認するということですね。他に追加したいことがあれば、後ほどご意見をいただければと思う。

(2) 在宅介護実態調査について

事務局	資料説明。資料 3
委員長	事務局から説明を頂いた。こちら意見伺いたい。
委員	このアンケートは、直接要支援・要介護者に送るのか。
事務局	はい。
委員	介護度の高い人がどの程度理解できるのか。対象者によっては、聞き取り調査の方が精度が高いものになるのではないかと思います。
事務局	無作為で抽出するので、家族などに手伝ってもらえない人は、ケアマネジャー（以下「ケアマネ」という。）等からの支援がもらえるかというところだと思う。
委員	本人が依頼をしないとなかなか難しいと思う。回答率を上げて、より精度の高いものにしようとする、そういう支援も必要だと思う。
委員	問 15 に、「利用しやすかった」とか「対応が良かった」という選択肢があるが、こういう場合はだいたい反対の意見もあるのではないかと。問 19 は、「助け合える人がいる」と、自分は助けられないという人は回答がしづらいと思うので、「相談できる人がいる」くらいの方が良いと思う。B 票については、ケアマネとかが補助して回答するのであればよいが、15 ページなど医療面での対応やストーマ等などの選択肢があると回答する人は分かるのだろうかと思う。
委員	問 15 については、前回、私がネガティブな選択肢が多いという話をしたからだと思う。両方入れてもらえればよい。
事務局	問 15 はバランスよく選択肢を入れる。問 19 は、地域での付き合いの程度を聞いているので、相談ができる人がいるという選択肢を始めにする。
委員	設問の中では、選択肢 1 はなんでも、選択肢 2 は内容によってとなっていて、ここが基本になっている。何でもか、内容によってはという分けの中で、相談し助け合える人がいるのかどうか。相談し助け合えるというところだけを見せようと、趣旨が違ってくる。
委員	問 19 の選択肢 5 が一番付き合いがなくて人との関係が少ない。選択肢 1 が一番多い。選択肢 2 と 3 の間に、相談ができるというものを入れるか、逆に選択肢 2 に相談だけできる人がいるなどの項目を 1 つ入れるか、選択肢 1 は何でも助けしてくれる人がいるにするか。助け合える時点で、相談はできる。内容による表現の仕方だと思う。
委員長	言葉が多すぎる。言葉を短くしたほうが良いのではないかと。要支援・要介護者向けなので、いかに分かりやすくするか。
委員	助け合えるというお互い様のことなのか、助けてもらえるということなのか。少しよくばった内容になっている。また、何でもではなくて、いつでもと捉える人もいると思う。

事務局	選択肢をもう一度検討する。
委員	先ほどの日常生活圏域ニーズ調査では、住まいを聞いているが、こちらでは聞かないのか。
事務局	記名式なので、住まいは分かる。
委員	住所が分かれば団地かどうか区別できると思うので、住宅形態は分かるのではないか。
事務局	団地によって賃貸か分譲か分かれるので、一度整理する。住所から拾えるのであれば項目からなくすし、そうでなければ違う形を考える。
委員長	整理、検討をお願いします。

(3) ケアマネジャーアンケート調査について

事務局	資料説明。資料4
委員長	事務局から説明を頂いた。意見を伺いたい。
委員	問 5-1 の選択肢はケアマネのテキストなどから持ってきたのか。出展はどこか。看護小規模多機能型居宅介護や基準緩和訪問型サービス A などマニエックなものも入っている。
事務局	一般的な介護サービスを並べている。
委員	出展はないということか。訪問栄養などの医療系の項目が欠如している。また順番として、医療系のサービスを一番上にしてほしい。
委員	居宅療養管理指導がそこに該当するのではないか。
委員	医療保険も一緒になっていて、訪問薬剤などはあまり入っていないということですね。
委員	介護保険だけになっている。訪問薬剤も栄養士も全て居宅療養管理指導に入っていると思う。介護保険制度の中で表記するとこのようになる。
委員	供給の不足を問うものであれば、まとめるのではなく個別にしなければ意味がないと思う。
事務局	訪問診療・訪問歯科診療・訪問薬剤管理指導・訪問栄養指導を選択肢に増やすか、括弧内に記入するか検討する。
委員	無記名での回答となっているが、第 7 期の回答率は 60%くらいで思ったより高くない。法的な問題がなければ、記名式の方が関心が高くなると思う。事業所も記名式となっているので検討してもらいたい。
事務局	所属している事業所あてにアンケートを送るので、あえて個人として結びつけるのではなく、事業所ごとに働きかけをする予定。
委員	事業所の人数の数字は出せるのか。
事務局	事業所ごとのケアマネの人数は分かる。ただし、誰が送ってきたかまでは分からない。送付した分、返信してもらえるように、事業所ごとに話をする。
委員	問 12-1 もネガティブな選択肢を入れてもらって良い。真摯に受け止める。
委員長	前回の回答率を上回ることを目標にしていきたい。

(3) 事業者アンケート調査について

事務局	資料説明。資料5
委員長	事務局から説明を頂いた。意見を伺いたい。
委員	対象となる介護サービス事業者はどの範囲か。
事務局	町内の居宅介護支援事業所・通所・ヘルパー、訪問看護も含めて、介護保険の事業所を対象に行う。
委員	5ページのサービス一覧に載っている町内の事業所か。
事務局	はい。
委員	対象となる事業所によって、関係のない質問項目があると思うが、そのあたりはどう考えているか。薬局も介護保険を取り扱っており、答えられないところもある。
事務局	アンケートの表紙に、今回の調査は無理に回答する必要がないという文言を入れているが、表現が足りない部分もある。注意書きを付け加える。
委員	居宅療養管理指導をしている診療所も対象なのか。
委員	居宅療養管理指導の医師や歯医者、栄養士など、どこまで抽出されるのか。
事務局	居宅療養管理指導の事業所には送付しない予定。
委員	みなしの事業所には送らないということか。
事務局	はい。そこに送らないのであれば、注意書きの変更はなくなると思うので精査する。
委員長	まずは分かりやすく作成し、少なくとも前回よりも回答率を上げることが大事。サービスの向上に繋げるという意味でも期待をしていきたい。今後は参集する予定がないので、今回の質問で修正したものを事務局に一任して、1月にアンケートを実施する。

5 その他

事務局	資料説明。資料6
委員長	事務局から説明を頂いた。この流れで今後進めていく。ご意見・ご質問はありますか。
委員	先週、地域福祉計画の策定委員会があり、その中で高齢者福祉の部分もアンケート調査を行っていた。地域福祉計画は来年度から始まり、第8期高齢者福祉計画も再来年度開始する。地域福祉計画の高齢者の部分も反映されてくると思うので、整合性も必要となると思う。
事務局	地域福祉計画は高齢者福祉計画の上位計画なので、整合性を取っていく。
委員長	その他意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。
事務局	11月11日に藤田医科大学と東郷町との地域包括に関する連携・協力について協定を締結したので報告する。今後、包括的な連携のもとで、保健福祉、生活安全、教育文化、交流、まちづくり等の分野において、相互協力をしていきたいと考えている。今後、地域ケア推進会議に関連することを進めていく場合には、随時報告をする。

	次回は、令和２年３月１７日（火）の午後２時から役場３階政策審議会室で開催するので、出席をお願いします。本日はありがとうございました。
--	--

以上